

# 令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果について

柳井市教育委員会

## 調査結果の公表にあたって

柳井市では、学校の組織的な取組を軸として、家庭、地域が連携して子どもたちの基礎的な知識及び技能と思考力、判断力、表現力等、そして学びに向かう力、人間性等の資質・能力を育成していくための「確かな学力」の向上に努めているところです。

そこで、教育課程の編成及び授業改善、児童生徒の学習状況の改善等に役立てることをねらいとして、児童生徒一人ひとりの成果と課題をより具体的に把握し、今後の施策に生かすために、全国学力・学習状況調査の結果を分析し、公表することとしています。

児童生徒に関わる様々な立場の方々と調査結果から見える成果や課題を共有していきながら、今後もより一層、学校・家庭・地域が連携し、一体となって柳井市の子どもたちを育てていきたいと考えます。

なお、結果の取り扱いについては、以下のことに御留意くださいますようお願いいたします。

- ・調査の目的や、調査結果は学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であること。
- ・国や県の平均正答率との比較により、序列化や過度の競争をあおるものではないこと。

## 調査の概要

### 〈調査の目的〉

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

〈調査実施日〉 令和7年4月17日（木）

〈調査実施校及び児童生徒数〉 ※小学校設置数は11校だが、うち1校は対象学年児童の在籍なし

学 年	学 校 数	児童生徒数
小学校第6学年	柳井市立小学校 10校	207人
中学校第3学年	柳井市立中学校 3校	251人

### 〈調査の内容〉

①教科に関する調査（小学校…国語、算数、理科 中学校…国語、数学、理科）

- ・調査問題では、以下1)と2)を一体的に問うこととする。

- 1) 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- 2) 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- ア 児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）【小学校…71項目、中学校…70項目】
- イ 学校に対する調査（学校質問紙）【小学校…84項目、中学校…84項目】

## 調査結果の概要

### 1 教科に関する調査

(小学校) 平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
柳井市	71	64	64
山口県	68	58	58
全国	66.8	58.0	57.1

(中学校) 平均正答率 (%)

	国語	数学	理科
柳井市	53	44	50.4
山口県	55	48	50.3
全国	54.3	48.3	50.3

※今年度から中学校理科のみ平均IRTスコア

(小学校) 調査の状況 ※ ( ) 内の数値は正答率

	相当数の児童ができている点	課題の見られる点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年別漢字配列表に示されている漢字を文中で正しく使うこと 【問題：このみ】 (87.7%)</li> <li>○時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること (84.0%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること (42.8%)</li> <li>●事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握すること (55.6%)</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>○異分母の分数の加法の計算をすること (85.6%)</li> <li>○伴って変わる二つの数量の問題に着目し、必要な数量を見いだすこと (85.0%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加法と被加法が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述すること (27.8%)</li> <li>●「10%増量」の意味を理解し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと (39.6%)</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、赤玉土の量と水の量を正しく設定した実験の方法を発想し、表現すること (87.7%)</li> <li>○ヘチマの花のつくりや受粉についての知識が身に付いている (82.4%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身の回りの金属について、電流を通す物、磁石に引き付けられる物があることの知識が身に付いている (13.4%)</li> <li>●レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現すること (45.5%)</li> </ul>

(中学校) 調査の状況 ※ ( ) 内の数値は正答率

	相当数の生徒ができている点	課題の見られる点
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>○文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えること (89.7%)</li> <li>○表現の効果について、根拠を明確にして考えること (81.9%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること (19.0%)</li> <li>●資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること (24.1%)</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>○必ず起こる事柄の確率についての理解 (75.0%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明すること (15.9%)</li> <li>●素数の意味についての理解 (19.4%)</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>○火災における適切な避難行動を問うことで、気体の性質に関する知識が概念として身に付いている (92.3%)</li> <li>○身近な電化製品の電気回路について探究する学習場面において、回路に抵抗がついている理由を問うことで、抵抗に関する知識が概念として身に付いている (82.0%)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仮説を立てて科学的に探究する学習場面において、電気回路に関する知識及び技能を活用して、仮説が正しい場合の結果を予想すること (24.0%)</li> <li>●水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いている (36.2%)</li> </ul>

※中学校理科は、予測正答率 (IRTスコアにおいて期待される正答率) の問題を除く